



吾妻神社 祭神 弟橘媛命、日本武尊

日本武尊が東征の時、三浦半島走水から海上上総へ渡ろうとした時、海神の怒りに触れ暴風となる。その時同行の弟橘媛が海に身を投げ海神の怒りを鎮めたという。その時の媛の櫛(衣とも)が近くの海岸に流れ着きそれを埋めたところとされる。この一帯を埋沢という。小袖が磯辺に流れ着いたので袖ヶ浦という。弟橘媛のご神体は木彫りの千手観音で現在等覚寺(藤巻寺)に安置されているという。(街道から往復45分)



吾妻神社

大和朝廷はこの辺りを師長国した垂仁天皇の時代、川勾神社が創られ一宮であった。相模国になってから寒川神社が一宮、川勾神社は二宮となった。町名の由来もここから。



長泉寺

近代文学の先駆者北村透谷が一時期生活した寺。親友島崎藤村はここに透谷を訪ね前川の海で遊んだことを小説「春」に書いている。



かわわ川勾神社

等覚院

道祖神

梅沢

西山

立湯

梅沢の一里塚跡

松屋本陣跡

梅沢の立場

小田原と大磯の間が16KMと長かったので間の宿として大友屋、蔦屋など茶屋があり賑わったという。松屋本陣はその中心的な存在であった。名物 栗餅、鮫鱈料理

車坂碑

太田道灌はこの辺りで夕立に遭う。
"鳴る神の声もしきりに車坂ととろかし
ふるゆう立の空"
源実朝、阿仏尼の歌も残る



国府本郷

この辺りは相模国の最後の国府の余綾(よるぎ、よろぎ)のあったところ。12世紀後半から鎌倉幕府成立まで

崇神天皇の御代に創建とされ、養老2年(718)現在地に。相模国の一ノ宮から四ノ宮平塚八幡宮の分霊と主祭神柳田大明神を祀る。

六所神社

国府新宿

国府本郷の一里塚跡

中丸

西長院

切通橋

ロングビーチ

大磯西IC



この辺り古くから塩造りが盛んに行われていた。川勾、山西、二宮村では明治の初めまで行われていたという。



松屋本陣跡

等覚院 別号 藤巻寺

樹齢400年といわれる藤で知られる。元和9年(1623)將軍家光が上洛の時一時馬を止めてご覧になったとか。



大山道道標(大山信仰)

この辺りから保土ヶ谷にかけて大山道の道標が見られる。大山は丹沢山系の東端にある標高1245mの雨降山、阿夫利山とも呼ばれ、山頂に石尊社(現在、阿夫利神社)、中腹に大山寺不動堂があり、雨乞いや、豊漁祈願に霊験ありとして江戸中期から盛んに信仰され、幕末に最盛期となる。

